修士論文作成要領(2000 改訂)

0．修士論文は私費印刷とする．教室および工学部共用のコピー機を使用してはならない（白黒，カラーコピー共）．

1．論文は 3 部提出（Ａ４判，21cm×29.7cm）する．用いる紙は長期保存に耐える白色の紙とする．表，グラフ等にカラー出力を用いる必要がある場合，３部とも同等の仕上げ（長期保存に耐えるもの）とする．

2．表題の変更は認められない．

3．文章は和文（横書き）または英文とする．和文の場合，原則としてワープロを使用し（本文は 10.5ｐ（標準明朝体），1 行 40 文字程度，１ページ 40 行程度とする．）長期保存に耐える出力とすること．手書きの場合は，製図用黒インクを使用し行間隔は約 1cm あける．英文の場合はワープロ，またはタイプ打ち（黒リボン）とし，本文はダブルスペース，引用文，文献，図表の説明はシングルスペースとする．

4．表紙は別紙に示す通りとする．

5．綴じ代として左端を 3cm あけ，上端，下端，右端を 2cm あけた枠内に本文を記載する．

6．ページ番号は表紙を除くすべてのページに付す．本文が始まるまでは小文字のローマ数字（i, ii, iii, ･･･），本文以降はアラビア数字（ 1,2,3, ･･･ ）を用いる．位置は下中央または右下端に記す．（下端から 1cm 以上，右端から 2.5cm 以上離すこと．）

7．図表は，複写しても判読可能な鮮明なものとする．折込ページは端から 約 1cm 入って折ること．Ａ４用紙を横使いする場合，天側が綴じ代側に来るように綴じる．（例えば，横長の地図なら地図上部が紙の左側を向くように綴じる）

8．写真などを貼付するには，変質，剥離，しわの生じない写真用接着剤を使用する．
ペーパーボンド，澱粉糊，セロテープ，ホッチキスなどを用いてはならない．

9．文献（引用，参考）は，章末または巻末に一括掲載する．文献は，（ 1），2），3），･･･）の記号を用いて，本文の該当箇所右肩に示すか，本文の該当箇所に（[1]，[2]，[3]，･･･）の記号を用いて示す．文献一覧を作成するにあたっては，次の例を参考にすること．ただし，論文の内容や体裁の都合でこの書式により難い場合には，論文の内容に関連する分野の学術誌で使用されている他の書式をもちいても差し支えない．

・ 論文の場合の例

1) 美濃部幸郎，坂本一成，塚本由晴，ヴォリュームの配列からみた複合建築の構成における統合形式，日本建築学会計画系論文集，No. 525，137-144(1999)

2) M. White, Interpersonal distance as affected by room size, status, and sex, Journal of Social Psychology, 95, 241-249(1975)
（この例では，著者，論文名，掲載誌名，巻または号，参考・引用ページ（公刊西暦年号）の順に示されている．）

・ 著書の場合の例

3) S. チモシェンコ，S. ヴォアノフスキー＝クリーガー（長谷川節　訳），板とシェルの理論（上），ブレイン図書出版，東京，50-53(1973)

4) Frank Fahy, Sound and structural vibration, Academic Press, London, 72-81(1985)
（この例では，著者，書名，発行所，刊行地，参考・引用ページ（公刊西暦年号）の順に示されている．）

・ 編書の場合の例

5) 谷直樹，三浦要一，町人の町大坂，大阪市都市住宅史編集委員会編，まちに住まう－大阪都市住宅史，平凡社，68-92(1989)

6) K. H. Kuttruff, Sound in Enclosures, M. J. Crocker ed. , Handbook of Acoustics, John Wiley and Sons, New York, 925-938(1998)

（この例では，著者，論文名，編著者名，書名，発行所（英文の場合刊行地も），参考・引用ページ（公刊西暦年号）の順に示されている．）

10. 本文の最初には，１２００字程度の概要を示すこと．
11. 論文要旨は，別途提出すること．（提出期限，執筆要領は別途指示する．）
12. その他不明な点は，指導教官の指示を仰ぐこと．

論文には通例，次の項目が含まれるので参考にすること．

1. 題目（表紙）
2. 目次
3. 記号説明（本文中に含めてもよい）
4. 概要
5. 序論（問題の設定，過去の同種の研究レビュー，特徴，意義，位置づけ）
6. 研究の方法と過程
7. 研究の結果，データ（直接論旨展開に関わらないデータは資料編とする）
8. 結果の考察，解析，理論的考察
9. 結論（研究のまとめ，将来の同種の研究に対する示唆，展望，応用性など）
10. 文献一覧

神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程

修士論文

□□□□□□□□（ 題 目 ）□□□□□□□□

建設学専攻

修 士　太 郎
９９３Ｔ００１Ｎ

平成　年　月　日

主査　神戸大学　教　授・工博　構造太郎
副査　神戸大学　教　授・学博　環境次郎
副査　神戸大学　助教授・工博　計画花子